

平成 23 年 12 月 6 日 (火)

## 世界・国内ランキング発表！「国際MICE都市・横浜」

# 世界 第34位 ⇒ 24位に大躍進！

## ～2010年 国際会議統計～

2010年に開催された国際会議統計について、世界ランキングがUIA(国際団体連合)より、国内ランキングがJNTO(日本政府観光局)より発表されました。ともに毎年発表される国際会議開催実績の指標となる統計です。2010年は、横浜市にとって名実ともに「国際MICE都市」に向けて成長した年となりました。11月にはAPEC JAPAN 2010をパシフィコ横浜で開催。各国首脳を含む約10,000名もの関係者をおもてなしするとともに、横浜の魅力を世界に発信する好機となりました。APEC関連会議が市内で多数開催されたことで、UIA(国際団体連合)の基準を満たす国際会議が54件(2009年)から82件(2010年)に大幅増加。都市別ランキングが、世界第34位から第24位(※)に、アジア第8位から第5位に大躍進し、世界基準のMICE都市としての地位の確立に向けて、着実な一歩を刻みました。

国内の開催件数別都市ランキングでは、横浜市は東京(492件)、福岡市(216件)に次ぐ**第3位(174件)**となり、「中・大型国際コンベンション」には、第1位の東京(51件)に僅か4件差(47件)まで迫る**第2位**を維持しました。また、今回初めてJNTOより発表された経済波及効果額では、**神奈川県(321億円)**が東京都(430億円)に次ぐ**第2位**となり、国際会議の開催は、開催地にとって大きな経済波及効果をもたらすことが実証されました。



APEC JAPAN 2010(第18回 APEC 首脳会議)記念撮影 パシフィコ横浜にて

### ◆International Meeting Statistics for the year 2010 (発行: UIA)\*注1

2010年の大躍進の背景には、UIAの国際選定基準を満たすAPEC JAPANの関連会議が、多数開催されたことにより、横浜の開催件数を大幅に押し上げたことが推測されます(横浜市内APEC関連国際会議:10件)。また横浜では、市内大学で開催された国際会議件数も大幅な伸びを記録したことも要因の一つとしてあげられます(2009年:17件⇒2010年30件)。

順位			都市	件数	順位			都市	件数
世界	アジア	国内			世界	アジア	国内		
1	1		シンガポール	725	1	1	シンガポール	689	
5	2		ソウル	201	9	2	ソウル	151	
7	3	1	東京	190	11	3	1	東京	134
17	4		釜山	93	21	4		バンコク	81
<b>24</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>横浜</b>	<b>82</b>	23	5		北京	80
25	6		北京	79	29	6		済州	61
31	7		済州	67	32	7		ニューデリー	57
36	8		上海	63	<b>34</b>	<b>8</b>	<b>2</b>	<b>横浜</b>	<b>54</b>
38	9		バンコク	61	36	9		クアラルンプール	49
			クアラルンプール		45	10		釜山	41
		3	京都		47	12	3	神戸	40
41	12		ニューデリー/台北	57	50	13	4	京都	39

(裏面につづく)

(※)UIA 発表の表示順位は、同件数を1グループとカウントしており、横浜は21位となっております。個別にカウントとすると24位となります。

公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー 事業部 企画戦略部門  
 広報担当マネージャー 中村 淳 TEL: 045-221-2111

お問い合わせ先

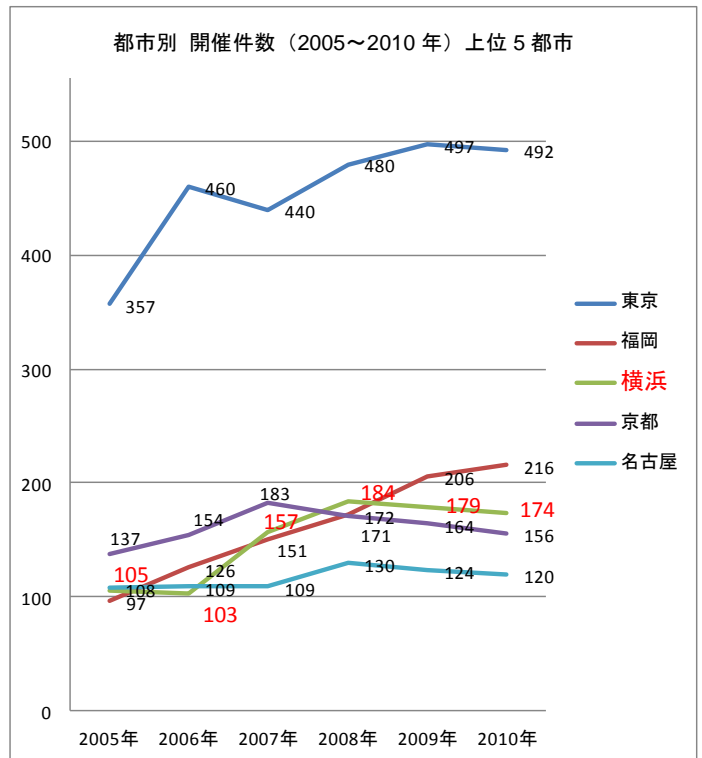
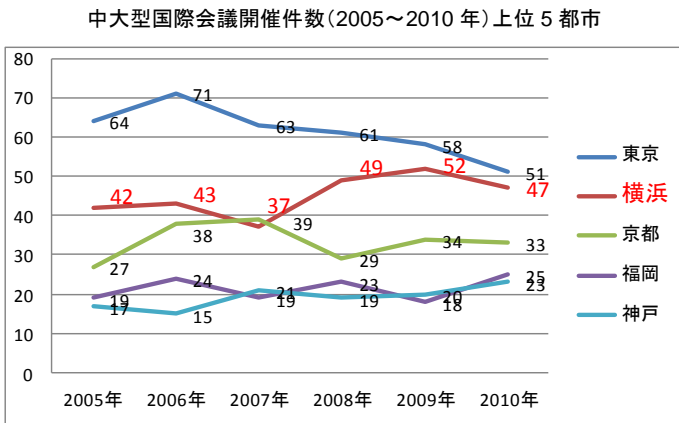
\*本日は19:00まで在席しております。

◆2010年国内における国際会議統計（発行：日本政府観光局）\*注2

開催件数：174件（第3位）

中・大型国際コンベンション：47件（第2位）

日本全体で開催された国際コンベンションの件数は2,161件、各都市精力的に件数を増加させる中、横浜は第3位を維持。参加者総数が300以上、うち外国人参加者50人以上を占める「中・大型国際コンベンション」に至っては、第1位の東京に僅か4件差まで近づきました。



参加者総数：164,789人（第2位）

都市別の参加者総数では、横浜は164,789人で、東京（187,058人）につぐ第2位となりました。2009年の32万人から大幅に減少した背景として、1万人以上の規模の展示会併催の国際会議が2009年（11件）から2010年（3件）に減少したことが主な要因としてあげられます。

2010年			2009年		
順位	都市名	参加者総数(人)	順位	都市名	参加者総数(人)
1	東京(23区)	187,058	1	横浜市	327,513
2	横浜市	164,789	2	東京(23区)	152,193
3	京都市	107,643	3	福岡市	114,103
4	神戸市	91,450	4	京都市	107,347
5	名古屋市	74,411	5	大阪市	82,300

都市別 国際会議参加者総数(2009, 2010)上位5都市

経済波及効果額：神奈川県(321億円) 第2位！

日本政府観光局が、今年度より発表を開始した経済波及効果額について、神奈川県(321億円)は、1位の東京都(430億円)に次ぐ第2位となりました。特筆すべき点として、開催件数が第2位の神奈川県(180件)のうち、174件は横浜市で開催されていることから、その効果の多くは横浜で生み出されているものと考えます。また、会議分野の特性として、医学系会議の1会議あたりの経済波及効果額(5.4億円)が高いことから、他都市に比べ、医学系会議の開催件数の多い神奈川県(横浜市)の効果額が高くなったと推測されます。

2010年			
順位	都市名	経済波及効果額 (単位100万円)	開催件数(件)
1	東京都	43,001	500
2	神奈川県	32,117	180
3	福岡県	28,637	267
4	京都府	25,157	159
5	愛知県	24,830	137

都道府県別経済波及効果額(上位5地域)

(別添：「参考資料」)

## ◆これからの横浜

公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューローは、横浜市や市内関連事業者との連携を図り、APECに代表されるようなシティセールス効果と経済波及効果の高い国際会議の誘致活動を行っています。2010年のAPECの成功を通じ、最高難度の警備、各国首脳へのおもてなしなどを経験したことで、国際MICE都市としての高い開催支援能力を持つ「横浜」の名を広く世界に示しました。

今年は、2008年に横浜で開催した「第4回アフリカ開発会議」(85か国代表、3,000名以上参加)を、再び誘致すべく、横浜市、神奈川県、横浜商工会議所、神奈川県経営者協会など県内27団体が連携して、誘致組織を立ち上げました。今後、2013年の「第5回アフリカ開発会議」の誘致実現に向け、地元が一丸となって取り組みを開始しました。

激しい都市間競争の渦中であって、横浜として「国際MICE都市」としての魅力をアピールするとともに、新たな誘致支援プログラムの立ち上げなどを通じ、今後もMICE振興を進めていきます。

### <参考資料>

#### \*注1

#### UIA(国際団体連合: Union of International Associations)による国際会議統計

UIAは、1907年にベルギー・ブリュッセルにおいて設立された非営利・非政府の団体です。6万を超える組織団体等に関わる情報の調査・収集・分析を行っており、その一環として、国際会議統計(UIA統計)を6月に(暫定)発表しています。

Union of International Associations  
UIA



#### 【国際選定基準】

(1) 国際機関・国際団体の本部が主催又は後援した会議

- ①参加者数50人以上
- ②参加国数3か国以上
- ③開催期間1日以上

又は

(2) 国内団体もしくは国際団体支部等が主催した会議で

- ①参加者数300人以上(うち40%以上が主催国以外の参加者)
- ②参加国数5か国以上
- ③開催期間3日以上

#### \*注2

#### 日本政府観光局(JNTO)国際会議統計による国際会議の選定基準

#### 【国際会議選定基準】

国際機関・国際団体(各国支部を含む)又は国家機関・国内団体(各々の定義が明確でないため民間企業以外は全て)が主催する会議で

- ①参加者総数が50名以上
- ②参加国が日本を含む3か国以上
- ③開催期間が1日以上

(企業内会議、研究機関が行う講義、投資・観光セミナー、研修会等は除外。)



日本政府観光局 (JNTO)  
Japan National Tourism Organization